

# 平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 2 1 年 1 0 月 2 9 日  
栃木県農業環境指導センター

## シヨウガ青枯病

1 病原菌：*Ralstonia solanacearum*（レース 4 型）

2 作物名：しょうが

3 発生経過

栃木県内のしょうがほ場において、平成 2 1 年 7 月上旬頃から（特に 9 月上旬以降）激しい株枯れ症状が発生した。栃木県農業試験場病理昆虫研究室で本症状について、遺伝子診断手法を用いて検定を行ったところ、病原細菌 *Ralstonia solanacearum*（レース 4 型）による青枯病であることが確認された。なお、しょうがでの発生は、高知県においてすでに確認されている。

4 病徴

下位葉での黄化・萎凋が速やかに上位葉へと進展し、全身的な萎凋、枯死に至る。偽茎は水浸状となり、根茎から容易に離脱、倒伏する。偽茎と根茎の切断面からは白色菌泥が漏出し、維管束部は暗褐から黒変に変色する。



図 1 全身萎凋・枯死した株



図 2 一部腐敗が始まっている根茎

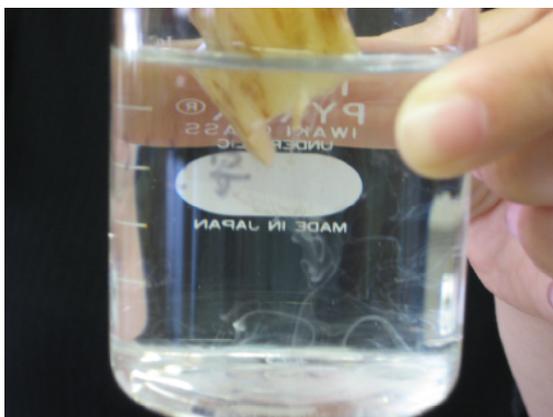


図 3 切断面から漏出する白色菌泥

## 5 病原菌の特徴と伝染経路

本病の病原菌は細菌であり、高温多湿時に発生しやすい。宿主植物が無くても土壌中や水中で長期間生存し伝染源となる。宿主植物が植付けられるとまず根圏で増殖し、傷口などから侵入して急激に増殖し、典型的な導管病特有の症状を引き起こす。

汚染土壌の持込のほか、灌漑水、罹病した種株等で伝搬する。また、管理作業時の傷口などから伝染しやすくなる。

## 6 感染植物

### (1) 自然感染が確認されている植物

ショウガ科作物（しょうが、みょうが、クルクマ）

### (2) 人工接種により感染が確認されている植物

トマト、ナス、ピーマン、ばれいしょ

## 7 防除対策

本病に対する有効な薬剤はないので、下記の耕種的防除に努める。

- (1) 既発生圃場の土壌を未発生圃場に持ち込まない。
- (2) 病原菌は高温多湿を好むので、ほ場の排水をよくする。
- (3) 発病株は感染源となるため、見つけ次第処分する。ただし、引き抜くと隣の株の根を傷め、感染を助長するので、周囲の株を傷つけないように注意する。発病株は、ほ場外に持ち出して処分する。
- (4) 連作ほ場で発生しやすいので、イネ科作物などを導入した輪作を行う。また、センチュウ類が多発すると発病を助長するので、土壌消毒によるセンチュウ類防除を行う。

詳しくは農業環境指導センターにお問い合わせください。

TEL 028 - 626 - 3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>